

## 第 22 回 PSV（ピア・スーパービジョン）報告

2018 年 10 月 13 日（土）当日は計 28 名の参加者を迎えて行われました。前半は柏木昭先生（本学名誉教授・本学総合研究所名誉教授）と大野和男先生（NPO 法人ドレミファ会副理事長・元本学非常勤講師）による対談が行なわれました。

大野和男先生による「ソーシャルワークにおけるスーパービジョン」と題して行われた講演では、大野先生のご専門である精神保健福祉領域での長年の現場経験から、現在のソーシャルワーカーの実践の場は拡大し、多様化している。そのなかにあつて、ソーシャルワーカーは利用者の地域生活支援に“かかわる”役割が求められている。その意味では利用者に留まらず、地域社会全体からその専門性（実践の質）や存在意義（社会貢献度）が問われるようになってきた。また、その状況にあつて、スーパービジョンの重要性が大きくなっていることが語られました。その上で、ソーシャルワーカーとして「クライアントの弱い立場に対して、敏感になる点（人と状況と全体性）」を認識する事が日々の実践のなかで深く問われていくことになると結ばれました。

大野先生による講演を受けて、柏木先生は「Y 問題」での経験を踏まえながら、ソーシャルワーカーは利用者と対話をしていくなかで利用者との対等な関係を築くこと。その点からスーパービジョンにおけるスーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性についても言及され、利用者との“かかわり”を大切にしながら、利用者との関係性を深めていく“カイロスの時間”のプロセスが求められていくこと。その点は人権擁護の観点からも「対話と自己開示」のプロセスが必要不可欠であり、大変重要であることが語られました。

おふたりの先生の対談を通じて、参加者一同、これからの時代の援助者（ソーシャルワーカー）としての在り方について考えることができたように思います。

後半は、日頃、現場で働いているなかで感じていること、また各々の現場で抱えている個別の事例や課題を通じて、自由な雰囲気の中で意見交換が行われました。参加者はグループのさまざまな人の話や意見、アドバイスに耳を傾け、話し合うプロセスなかで、お互いのそれぞれの悩みや問題点を共有することができる良い機会となったようです。

今回で第 22 回目を迎えたピア・スーパービジョンは、保健・医療・社会福祉現場や一般企業で対人援助の仕事をしている人たちが、日頃の実践に必要な“かかわり”について見つめ直し、お互いに知り合い、情報交換を行うための研修と交流のプログラムとなっており、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターと SW-net（聖学院ウェルフェアネット一卒

業生を中心とする福祉のネットワーク)による企画運営の共催で行われています。これまで毎年、年に2回のペースで開催されてきました。次回、第23回のプログラムは2019年2月2日(土)を予定しています。

[2018年11月24日(土)記]

山田裕太 (SW-net・人間福祉学科 卒業生)